

第1回わかやまの棚田・段々畑サミットを開催

平成26年11月15日(土)～16日(日)の2日間、有田川町において、「第1回わかやまの棚田・段々畑サミット」を開催しました。16日のシンポジウムには東京等県外を含め、283名の参加があり、棚田や段々畑を守り、地域を活性化する取り組みを学びました。

1)開催概要

このサミットは、平成25年に本県で開催された「第19回全国棚田(千枚田)サミット」により高まった棚田等の保全に対する意識を一過性のものにせず、県内に広めていくことを目的に、県内23市町村、県土地改良事業団体連合会、県農業協同組合中央会、並びに6つの棚田保全団体で組織する「和歌山県棚田等保全連絡協議会」が主体となり、今年度より開催することとしました。

今回は、全国サミットに続き有田川町を会場とし、「～まもる心が育む豊かな恵み～ 棚田・段々畑の未来を見つめて」をテーマに、現地見学会・講演会・事例発表・パネルディスカッション等を行いました。

2)11月15日(現地見学会)

1日目は、沼谷地区と清水地区の現地見学会を行いました。当日はさわやかな秋晴れの下、66名の方々が風情あふれる棚田の景色をご覧になられました。

沼谷地区は、標高450mから700mに棚田が広がり、「天空の棚田」と言われる地域です。平成24年度に和歌山大学の援農サークル「agrico.」と協働活動に関する協定書を締結し、農作業の支援、地域資源の発掘と有効活用を継続的に行っています。当日は、地区のみなさんと「agrico.」の学生が、沼谷で収穫したもち米で餅つきを行いました。そのお餅を参加者にふるまうことで、参加者との交流を深めました。

清水地区は、平成25年10月に「蘭島及び三田・清水の農山村景観」の名称で国の重要文化的景観に選定された地域です。当日は、「日本の棚田百選」にも認定されている「あらぎ島」を見学し、笠松左太夫が残した独特の景観を楽しんでもらいました。

また、現地見学会終了後は、地域の食材を用いた交流会を開催しました。交流会には56名の方々が参加され、地域の取り組みや課題等について、夜遅くまで活発な意見交換が行われました。



3) 11月16日(シンポジウム)

2日目は、清水文化センターを会場としてシンポジウム等を開催しました。会場では県内の棚田保全団体など6団体が地域製品の販売やパネル展示などを行いました。また、昼食には有田の食材にこだわったお弁当が提供され、お腹の中から有田川町を楽しんでもらいました。

開会に先立ち、“わかやまの美しい棚田・段々畑(※1)”認定証授与式を行いました。この制度は、過疎化、高齢化の進む中山間地域で、自主的な保全活動により棚田・段々畑を守っている保全団体ならびに地域を認定するものです。これにより耕作を続けるみなさまの取り組みへの理解を促すとともに、認定情報を発信することにより、来訪回数増加や都市住民等との交流の促進を図りたいと考えています。この制度は県が今年から導入した制度で、今回は5地区(※2)が認定され、保全団体の代表者等に認定証が授与されました。また、“棚田〇選”といった上限を設けるのではなく、基準に達した地区を毎年認定し、取り組みを応援していくこととしています。来年以降も多くの地区を認定できるよう、保全活動を推進していきます。



※1 和歌山の美しい棚田、段々畑の基準

- (1) 地形勾配がおおむね20分の1以上の階段状の水田または畑であり、美しい景観が保全されている地区。「あらぎ島」
- (2) 概ね1ha以上の団地を構成
- (3) 農地の維持管理が行われており、今後も継続して行われる見込みであること。
- (4) 地域の特色を生かした共同の営農活動、他地域との交流活動、環境保全活動、その他の保全活動に取り組んでいるまたは取り組む予定地区であること。

※2 平成26年度認定地区 ()内は保全団体

- ・橋本市 芋谷の棚田 (柱本田園自然環境保全会)
- ・有田市 山田原の段々畑 (山田原集落)
- ・有田川町 あらぎ島 (あらぎ島景観保全保存会)
- ・田辺市 龍神村下廣井原の棚田 (仮屋集落)
- ・那智勝浦町 小阪の棚田 (棚田を守ろう会)

シンポジウムは、基調講演と3地域からの事例報告、パネルディスカッションの構成で実施しました。

基調講演では、NPO 法人エコプラスの高野孝子代表理事が「地域を開いて、未来を拓く: 棚田を巡る南魚沼での取り組みを通じて」と題して、“棚田の畦畔は草刈りが大変”という発想を転換してこれをキャンバスとしたアート作品の作成や棚田などに存在する植物、昆虫を再発見する環境学習など、地域と一緒にやってきた活動を報告し、中山間地域の課題と可能性について講演されました。都会にはない生物多様性や地域の方々があたりまえと感じている暮らしの魅力などを最大限に活用して、中山間地域の課題解決にチャレンジしていくことの重要性を感じました。

事例報告では、輪島市交流政策部観光課の坂下照彦課長が「世界農業遺産の象徴・輪島白米千枚田で観光とタイアップした取り組み」と題して、世界農業遺産に登録された白米千枚田における千枚田愛耕会が行う棚田保全活動と、行政が地元企業とのタイアップにより開発した太陽光発電 LED「ペットボトル」を活用してイルミネーションイベントを実施するなど行政の支援策について発表されました。なお、平成26年12月6日～平成27年2月1日の間、今回のサミットの現地見学地である「あらぎ島」において、LEDソーラーライト約3000個を使ったイルミネーションイベント「あらぎ島イルミテラス」が実施されます。昼間とは違った幻想的な「あらぎ島」の景観をご鑑賞ください。



次に、柱本田園自然環境保全会の佐藤俊事務局長が「和歌山県・橋本市の北部に位置する柱本地区の棚田再生活動について」と題して、地域で実施している里山保全活動の紹介、前日の現地見学地である沼谷区の鈴木清司氏が「何とかしょうら わがらでしょうら ～有田川町沼谷地区の取り組み事例紹介～」と題して、沼谷地区の中長期的な地域再生計画について発表されました。

その後、東京農工大学客員教授福井隆氏をコーディネーター、NPO 法人棚田ネットワーク中島峰広代表をアドバイザー、基調講演者、事例報告者をパネリストとして、「～棚田・段々畑地域の新たな価値を見出すための意見交換～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネリストの方々が、取り組みを始めて現在に至るまでの地域の変化や今後の展望について意見交換を行いました。大事なことは、地域にとっては“あたりまえ”であっても都市住民から見れば極めて珍しいもの、いわばこれまで気づかなかった「価値」を発見し、その「価値」を醸成・活用することが重要であり、このためには、地域住民と都市住民とが自然におつきあいすることができる信頼関係を築き、一緒になって取り組んでいくことが必要だと感じました。



4)おわりに

今回のサミットにより、棚田・段々畑の重要性や保全する意義についての気運がより高まったと思います。過疎化、高齢化の進む中山間地域では今回の事例報告地区を参考に、地域が前向きに一步踏み出すことが必要であると考えます。県としては、「中山間ふるさと・水と土保全対策基金」をはじめとする支援策により、そのきっかけづくりを進めていきます。

高まった気運を継続していくために、来年度も“わかやまの棚田・段々畑サミット”を実施します。次回開催地は、今回、“わかやまの美しい棚田・段々畑”に認定された「小阪の棚田」がある那智勝浦町となります。ぜひご参加くださるようよろしくお願いいたします。